

## 【質疑応答】

### 《学校現場における感染状況について》

読売新聞 新型コロナ〔ウイルス感染症が〕急速に感染拡大してるんですけども、学校現場においてですね、今年に入ってからの感染者数は高校とか小中学校、特別支援学校とかあると思うんですけど、データがある数字、教職員や児童生徒、あと、現在最新の数字で休校している学校の数、学年閉鎖、学級閉鎖も含めて、もしデータをお持ちでしたら教えてください。

教育長 はい、日々更新しておりますので担当〔豊かな心と身体育成課〕の方から説明させていただきます。

豊かな心と身体育成課教育指導室 まず、学級閉鎖、学年閉鎖の学校数についてですけども、1月13日（木）時点の県内公立学校における臨時休業等の校数は45校でございます。そのうち学校全体を止める臨時休業については18校、学年閉鎖につきましては、12校、そして学級閉鎖につきましては、15校となっています。

読売新聞 学校の種別は。

豊かな心と身体育成課教育指導室 まずですね、臨時休業の18校につきましては、特別支援学校が1校、中学校等が7校、そして小学校が10校です。それから、学年閉鎖の12校につきましては、全て高等学校です。そして学級閉鎖の15校につきましては、高校が8校、特別支援学校が1校、中学校が3校、小学校が3校でございます。

なお、感染した陽性者数〔は〕、ごめんなさいちょっと今持ち合わせてないです。

読売新聞 今教えていただいた数字をちょっと紙で出していただけると。聞き間違い等あったら大変なんで。簡単な形で結構ですので。

聞いてみるとですね高校が多いようなんですが、これは何か理由は推測されるんでしょうか。小学校はほとんどなくてですね、高校の休校等が多いように思うんですけども、これは小学校よりも高校が多いというのは何か理由は推測されるんでしょうか。

豊かな心と身体育成課教育指導室 活動範囲が広いということは考えられるとは思いますが、ちょっと断定はできないと思います。

教育長 いろんなところから来ているということもあるかと思えます。小中学校であればその地域が限定されていますので、それだけ活動範囲が狭いというふうに考えております。

読売新聞 では教育長にお伺いしますけれども、〔新型コロナウイルス感染症の感染者が〕かなりの数だと思うんですけども、この〔感染〕対策ですとかを気を付けていかなければいけないこと、あとまたオンライン授業とかそういうことも考えていらっしゃるのか。その辺りをお聞かせください。

教育長 はい。かなりですね年明けから感染者が児童生徒にも出てしまっておりまして、本当にこの〔新型〕コロナ〔ウイルス感染症〕はですね大変難しいなというふうに思っております。ただ、なかなか学校の学びを止めてしまってもいいのかということ、そうではないかと思っております。特に学校〔を〕例えば休みにしてしまうのが長期にわたるとですね、学習面だけじゃなくて心の問題ということも出てくるかと思っております。1番大事にしなければいけないのは命と安心安全ということだと思いますけれども、今のところ、この先ですね〔新型コロナウイルス感染症の〕感染状況がもっと悪い状況になった場合は、その都度その都度判断していくしかないと思っておりますけれども、今のところ、感染予防を厳しめにしつつも、学校の学びを止めない〔ことが大切だ〕と思っております。そのために、今申し上げた、〔臨時〕休業とか、あるいは学年ごと、学級ごとに閉めてる学校につきましても、オンライン授業を実施しております。そのために学校〔教育〕情報化推進課の方でWi-Fiの貸出し等を行っております。かなり細かく学校とやりとりをして、生徒

の状況を聞いて〔います〕。とにかくこういった中でも、学びを止めない〔ことが大切だ〕と思っています。

ただ、オンラインはですね長く続いちゃうと、やっぱり心が折れてきちゃうというところもありますので、なるべく、やはり対面とオンラインとを併用しつつ、ハイブリッドで学習が継続できるようにというふうに思ってます。

読売新聞 先ほども心の問題とおっしゃいましたけれども、オンラインである程度学習機会の保障はできて、その心の問題というのは具体的にはどのようなことが起こってくるのでしょうか。

教育長 はい、学校に行く目的というかですね、学校の良さっていうのは、知識を注入するだけではないと思っています。もちろんオンラインでもブレイクアウトルームを使ったりとか、いろんな形で話合いができますけれども、友達とこう会ってですね、心の内を語り合ったり、あるいは友達と話したり、先生とコミュニケーションをとったりということはすごく大きい〔こと〕と思っています。子供の発達上、やはり脳の刺激というのは、人と人との交流とか、あるいは、いろんな人から話を聞いたり体験をすることによって、発達していくものだと思いますので、そういう面で、ちょっとオンラインだけだと。

〔新型〕コロナ〔ウイルス感染症〕も2年になりますけれども、やっぱりなかなか、ストレスがかかるなというふうに大人も子供も思っていると思います。ただしこれは、〔新型〕コロナ〔ウイルス感染症〕というよりも、もしかしたら新型インフルエンザの時を想像していただくといいかと思えますけど、感染が心配というか、感染の状況がひどい場合はこれもう、学級閉鎖とか学年閉鎖しなければいけませんから、それはその都度その都度見ていくしかないかなというふうに思っています。

読売新聞 では、感染状況と相談しながらではありますけれども、今のところ、一斉休校ですとかそういうことは考えてらっしゃらないと。

教育長 そうですね現時点で、現時点においてです。これも1日、2日ですごく状況が今変わってますので、今日のこの今のこの瞬間では、県立学校においては、一斉休業や分散登校を行う予定はありません。ただ今後ですね、学校において感染者が発生した場合ですとか、あるいは学級閉鎖、休業など基準に基づいて、各学校の感染状況を踏まえて対応してまいりますけれども、これがですね、今後どうなっていくかというのはこれは何とも言えないという状況です。とにかく子供の命と安心安全を守っていかなければいけないと思えますけれども、先ほど申し上げたように、休業が長きにわたってしまいますと、生徒の学習面以外に、心に与える影響というのが、懸念されるところでありますので、様々なこの学校という場面での経験を通して、児童生徒は成長していると思っていますので、学校生活はとても大切であるというふうに思います。そういう意味では、全体を一斉休業とか分散登校するということは慎重に判断を行う必要があるというふうに思います。

読売新聞 はい、わかりました。ありがとうございます。

《高校受検への影響等について》

N H K 来月から高校受検が始まると思うんですけども、現在の感染状況などを踏まえて、高校受検への影響だったりとかあとは対策だったりありましたら教えてください。

教 育 長 はい。今のところ、予定どおり行う予定で考えておりますけれども、ただこれもですね繰り返しのなりますけれども、〔高校受検が〕どうなるかというのは、本当に感染状況によるというふうに思っております。選抜Ⅰがですね、おっしゃるように控えてまして、そういう意味では例えば面接なんかについても、受検者が密にならないように距離を十分にとるといった、配席を工夫をすとか今日もそうですけど換気を行うとか感染予防策を講じた上で、通常どおりの公平さとか公正性というのもありますので、予定どおり実施することとしてます。あと何よりですね、受検者一人一人が安心して受検に臨めるということが大事かと思っております。感染予防対策の徹底ですとか受検機会の確保、とにかくこれに努めていきたいという考えでおります。

N H K ありがとうございます。